

入 学 試 験 問 題



地 理 歴 史

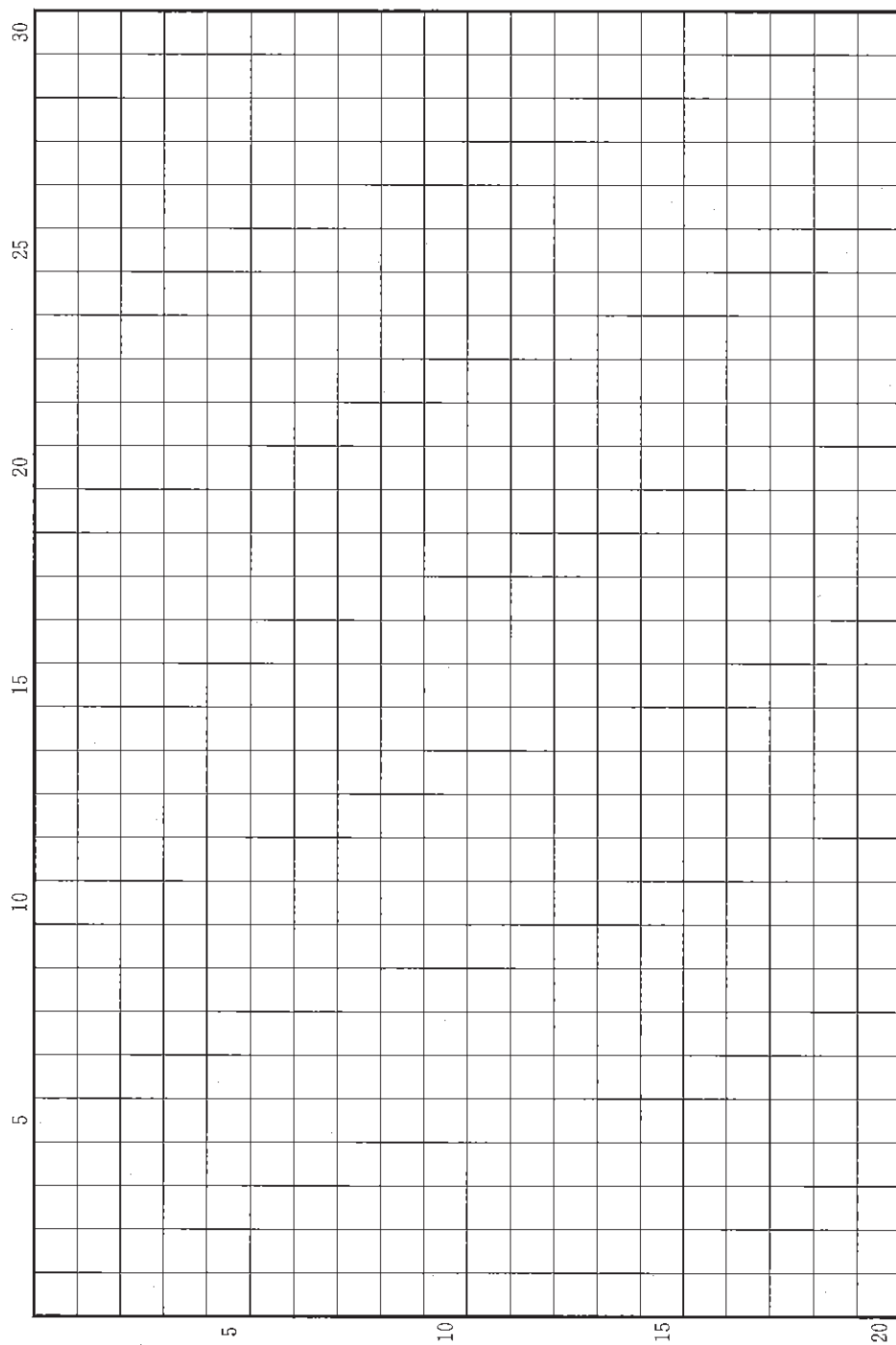
(配点 120 点)

平成 31 年 2 月 26 日 9 時 30 分—12 時

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は全部で 43 ページあります(本文は日本史 4 問 4～13 ページ, 世界史 3 問 14～25 ページ, 地理 3 問 26～43 ページ)。
落丁, 乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら, 手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 日本史, 世界史, 地理のうちから, あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。
- 4 解答には, 必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 5 解答は, 1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。
- 6 解答用紙の指定欄に, 受験番号(表面 2 箇所, 裏面 1 箇所), 科類, 氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。
- 7 解答は, 必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 8 解答用紙表面上方の指定された()内に, その用紙で解答する科目名を記入しなさい。
- 9 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち, その用紙で解答する科目の分のみ 1 箇所をミシン目に沿って正しく切り取りなさい。
- 10 解答用紙の解答欄に, 関係のない文字, 記号, 符号などを記入してはいけません。また, 解答用紙の欄外の余白には, 何も書いてはいけません。
- 11 この問題冊子の余白は, 草稿用に使用してもよいが, どのページも切り離してはいけません。
- 12 解答用紙は, 持ち帰ってはいけません。
- 13 試験終了後, 問題冊子は持ち帰りなさい。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



地 理

第 1 問

自然環境と人間活動の関係に関する以下の設問 A～B に答えなさい。解答は、解答用紙の(イ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問 A

図 1—1 は、東アジアから東南アジアにかけての海岸線と主要な河川(a～d)を示している。また図 1—2 中の P～R は、図 1—1 中のア～ウの各地点の月平均降水量の変化を示したものである。これらの図をみて、以下の問いに答えなさい。

- (1) 図 1—2 中の P～R に該当する地点の記号(ア～ウ)を、P—○のように答えなさい。
- (2) 図 1—1 中の河川 c の下流域では、かつて文明が栄えたことが知られている。都市の周辺には、巨大なため池が作られてきた一方で、川沿いの家屋は高床式となっているものが多い。その理由として考えられることを 2 行以内で述べなさい。
- (3) 図 1—1 中の河川 d の河口付近の海岸域では、ある植生が広がっており、2004 年に発生したインド洋津波による内陸への被害の軽減に役立ったと考えられている。他方、この植生は、河川 b の河口から河川 c の河口にかけての海岸地域を中心に、急速に失われている。この植生の名称と、失われた原因を、あわせて 2 行以内で述べなさい。

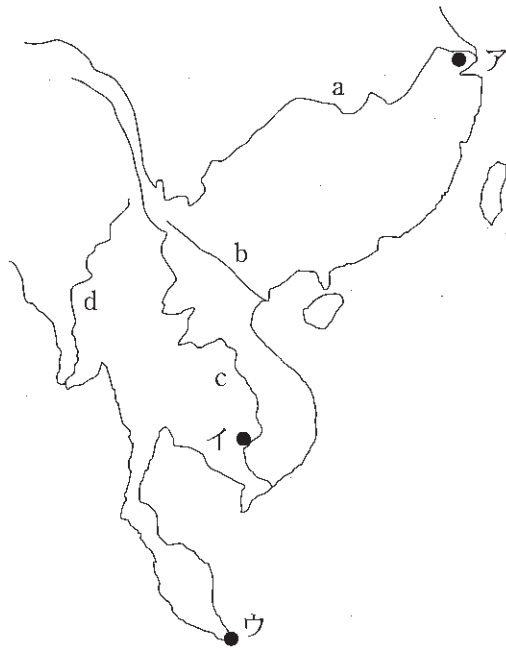


图 1—1

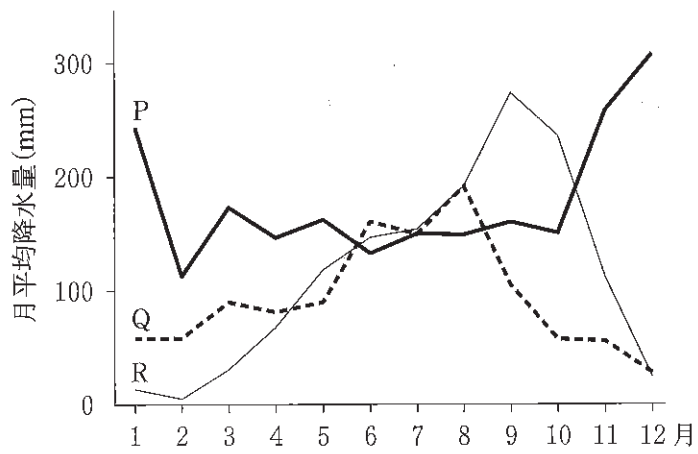


图 1—2

設問 B

メッシュマップは、地表面に一定の間隔の方眼線をかけ、各方眼の区域(メッシュ)ごとに土地の情報を示した地図である。コンピュータで扱いやすいため、地理情報システム(GIS)で使われる地図の代表的な形式の一つになっている。図1—3は、ある地域(地域X)の標高の分布をメッシュマップで示したものである。各メッシュに示された値はメッシュ内の平均標高(単位はm)である。図1—4は地域Xにおける人口の分布のメッシュマップで、各メッシュにおける人口が100人単位で示されている。両図の各メッシュの大きさは縦横ともに500mであり、方位は上が北である。

- (1) 地域Xには、海面、沖積低地、台地、山地、比較的大きな河川がある。これらの要素が地域の中でどこに分布しているかを3行以内で述べなさい。記述の際には他地域に関する次の例を参考にしなさい。「地域の中央に湖があり、北東部には扇状地がある。また、北西部から南西部にかけて深い峡谷があり、その底を河川が南に向かって流れている」。
- (2) 図1—4に示された人口の数値を用いて、地域Xの人口密度を算出し、単位をつけて答えなさい。有効数字は3桁とする。
- (3) 図1—3と図1—4に基づき、地域Xの人口の分布が地形にどのように影響されているかを、2行以内で述べなさい。

319	298	254	233	99	38
247	202	198	153	18	178
98	123	42	13	144	255
28	15	6	18	163	232
5	2	6	32	176	243
0	1	3	29	155	221

標高(m)

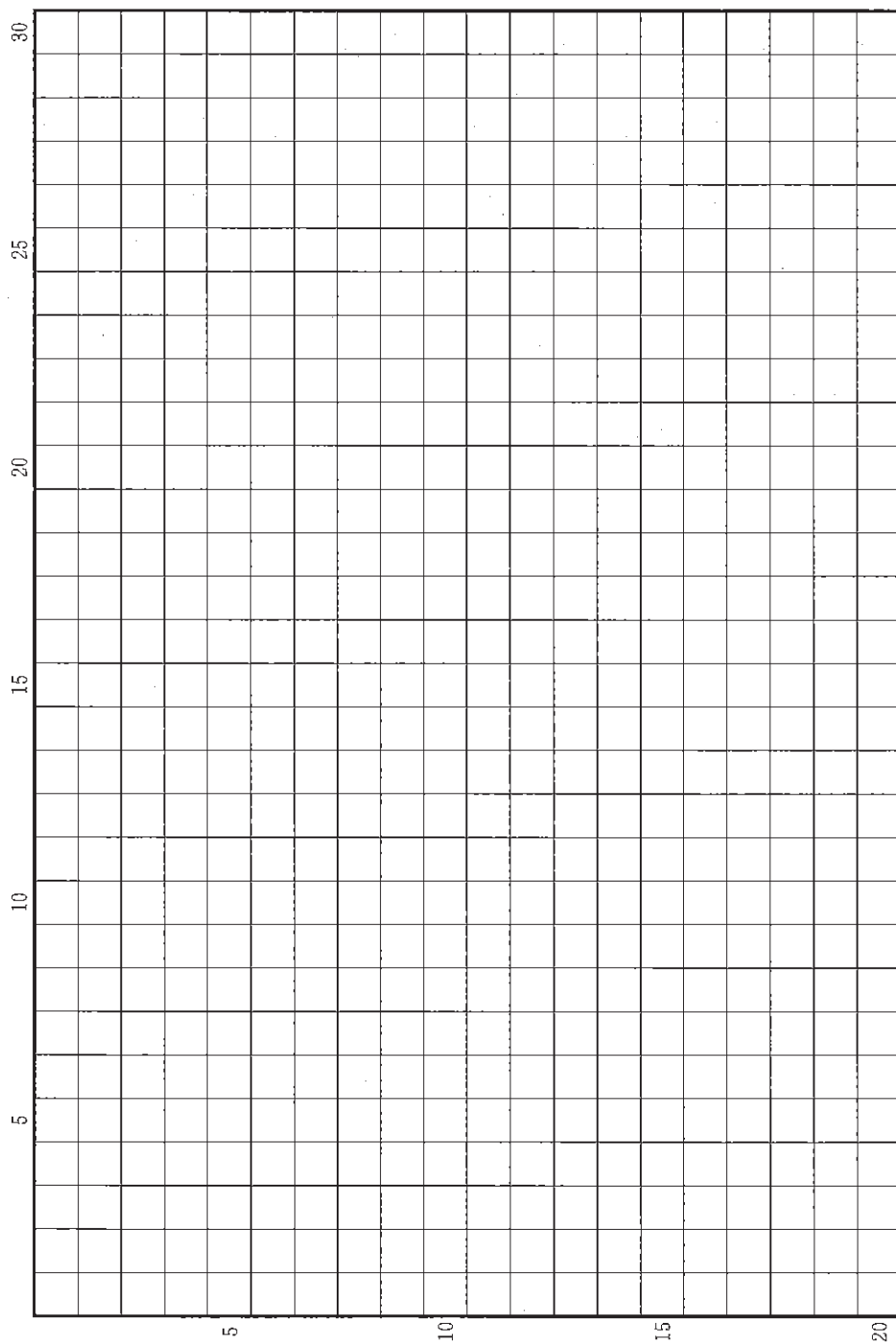
図 1—3

0	0	0	0	2	1
0	0	1	2	1	2
1	2	3	2	2	0
3	5	2	5	1	0
6	2	10	3	1	0
0	1	4	3	0	0

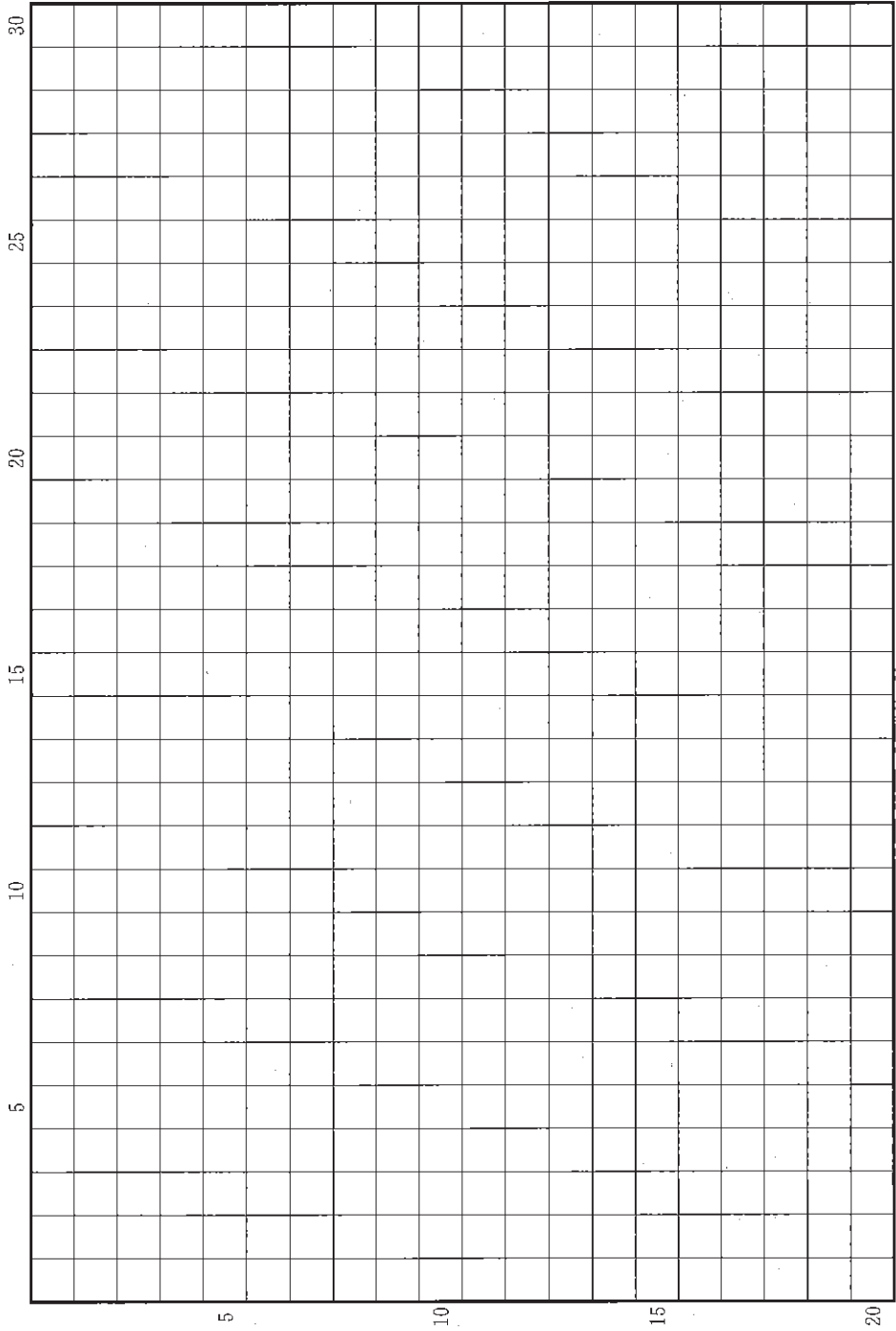
人口(× 100 人)

図 1—4

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



第 2 問

世界の国際貿易と国際旅行者に関する以下の設問 A～B に答えなさい。解答は、解答用紙の(ロ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問 A

経済活動に伴って環境中に排出される窒素は、様々な環境問題を引き起こしている。各国が排出する窒素には、国内の経済活動で排出される分だけでなく、国際貿易に関係して排出される分もある。図 2—1 は、各国の輸入品の生産過程で排出された窒素量から、輸出品の生産過程で排出された窒素量を引いた差を示している。図 2—1 に記された窒素の種類のうち、水溶性窒素は農産物や軽工業製品の生産過程、亜酸化窒素ガスやアンモニアは農作物の生産過程、窒素酸化物は化石燃料の生産過程や火力発電で、その大部分が排出される。

- (1) 環境中への窒素の過剰な排出によって生じる悪影響の例を 1 つあげなさい。
- (2) 図 2—1 の(ア)～(エ)は、アメリカ合衆国、中国、日本、ロシアのいずれかである。それぞれの国名を(ア)―○のように答えなさい。
- (3) オーストラリアでは他の先進国に比べて、輸出品の生産による窒素排出量が輸入品の生産による排出量を大きく上回っている。その理由を、オーストラリアの主要な輸出品の特徴を踏まえて 2 行以内で述べなさい。
- (4) 地球環境への悪影響を防止するために、先進国を中心に窒素排出量を規制する動きが高まっている。しかし、世界全体の窒素排出量を削減するためには、各国の自主的な規制に任せるだけでなく、国際的なルール作りが必要とされている。その理由を、国際貿易に関連させて 3 行以内で述べなさい。

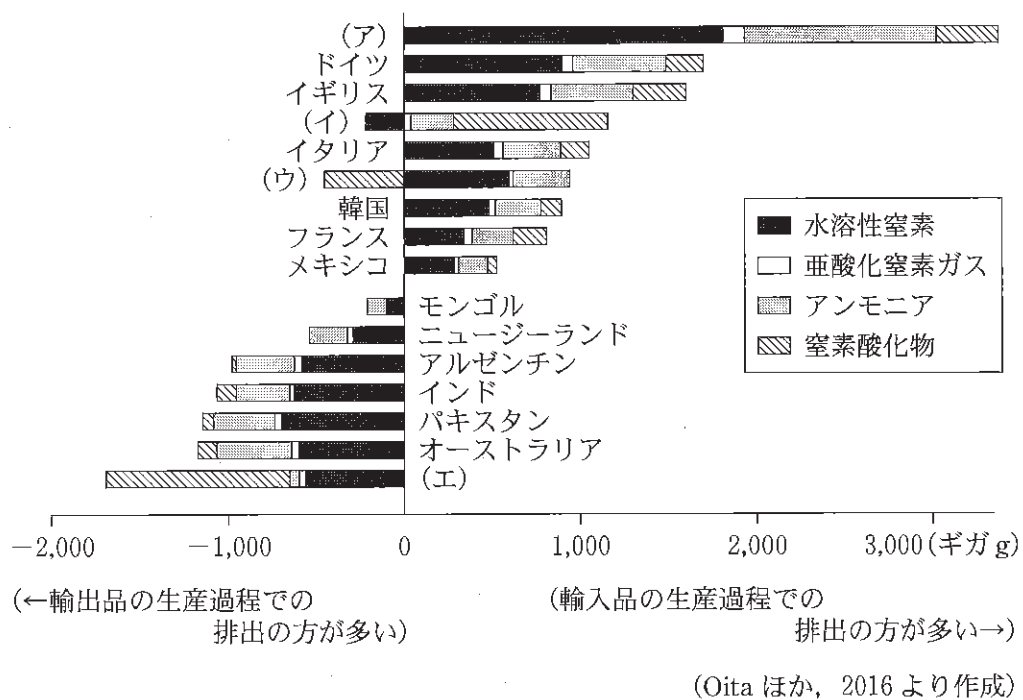


図 2—1

設問 B

近年、観光や商用などで外国を短期間訪問する国際旅行者が、世界的に増加している。表 2—1 は、2015 年時点で外国からの旅行者の数が上位の国・地域について、外国人旅行者受け入れ数、自国人口 100 人あたりの外国人旅行者受け入れ数、人口 1 人あたり国民総所得 (GNI) を示している。また、表 2—2 は、日本を訪れる旅行者が、2015 年時点で上位の国・地域について、2005 年と 2015 年の訪日旅行者数を示している。

- (1) 表 2—1 の (ア)～(ウ) は、下記の中のいずれかの国である。それぞれの国名を、(ア)―○のように答えなさい。

アメリカ合衆国 スペイン ドイツ フランス ロシア

- (2) (ア) 国と (ウ) 国は、自国人口 100 人あたりの外国人旅行者受け入れ数が著しく多い。その両国に共通する理由として考えられる自然的および社会的条件を、あわせて 2 行以内で述べなさい。

- (3) 表 2—2 からは、中国とタイからの訪日旅行者が、近年、とくに増加していることが読みとれる。中国とタイからの旅行者数が増加している共通の理由として考えられることを、下記の語句をすべて用いて、3 行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

所得階層 政策 航空 入国管理

表 2—1

(2015 年)

順位	国・地域	外国人旅行者受 け入れ数 (百万人)	自国人口 100 人あたり外 国人旅行者受け入れ数 (人)	人口 1 人あたり 国民総所得 (千ドル)
1	(ア)	84.5	131	37.1
2	(イ)	77.5	24	58.1
3	(ウ)	68.5	149	25.8
4	中 国	56.9	4	8.0

国連資料による。

外国人旅行者の定義は国によって異なる。

中国には台湾・香港・マカオは含まれない。

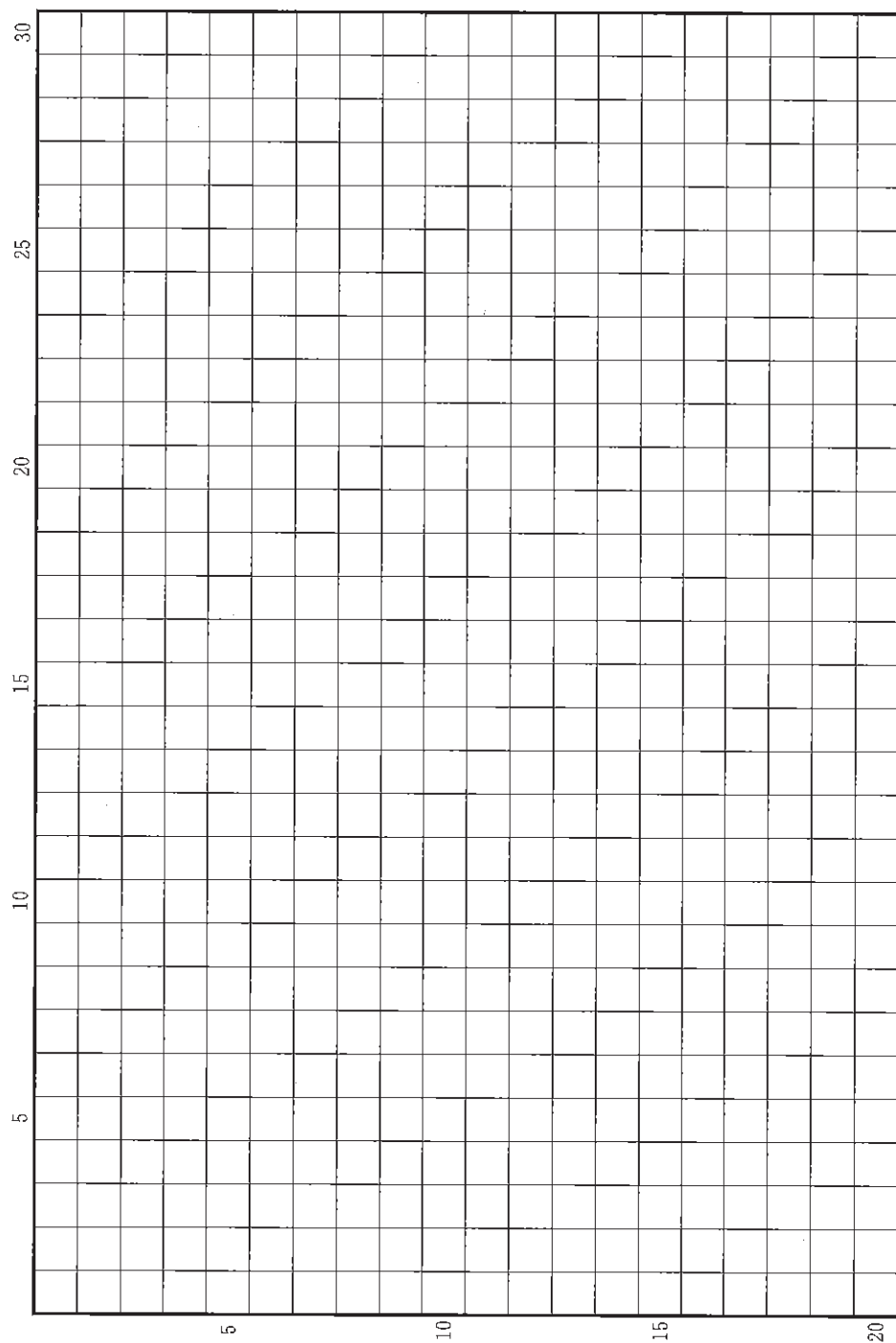
表 2—2

順位	国・地域	訪日旅行者数 (万人) 2015 年(a)	訪日旅行者数 (万人) 2005 年(b)	(a)/(b)
1	中 国	499	65	7.6
2	韓 国	400	175	2.3
3	台 湾	368	127	2.9
4	香 港	152	30	5.1
5	アメリカ合衆国	103	82	1.3
6	タ イ	80	12	6.6
	世界計	1,974	673	2.9

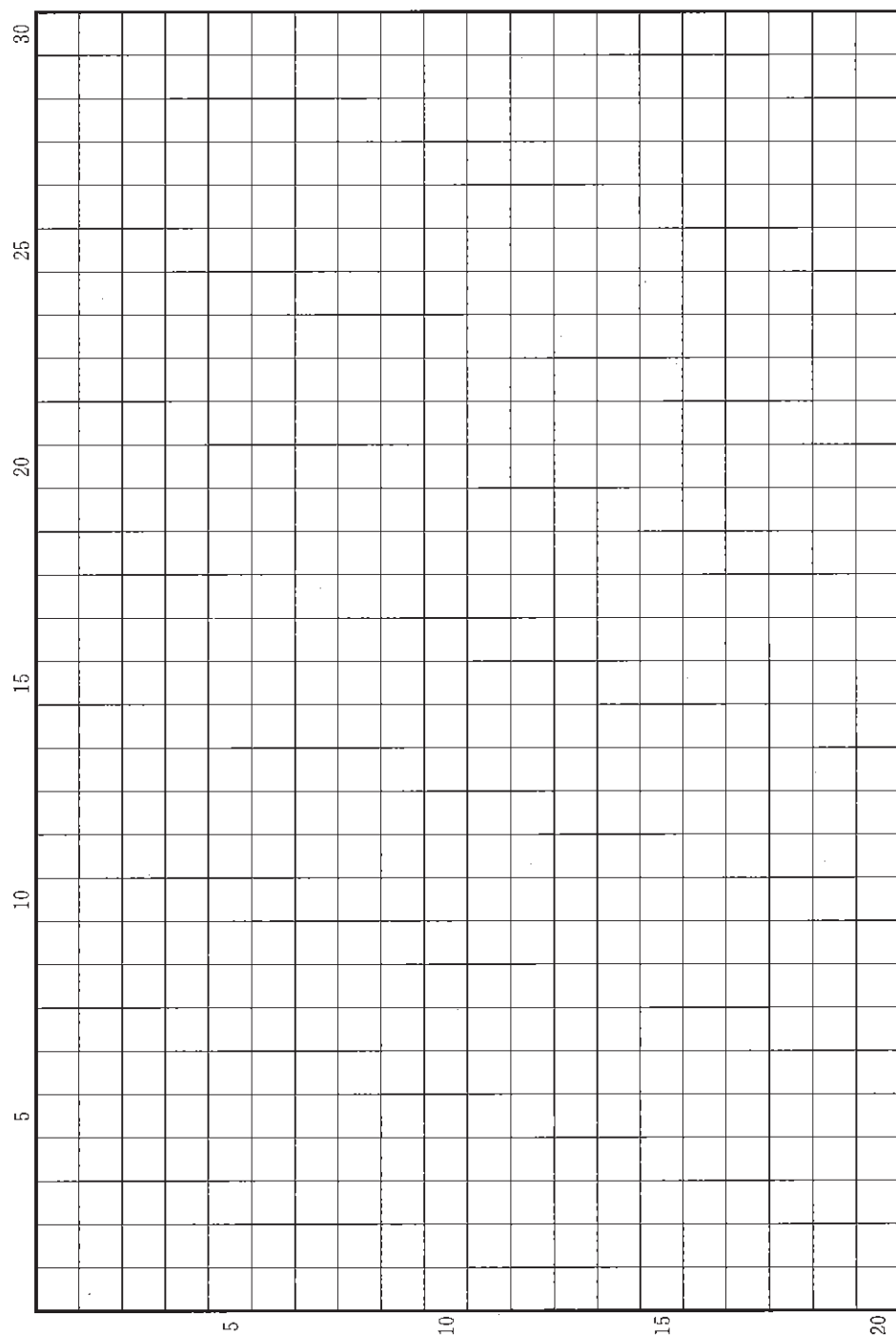
日本政府観光局資料による。

中国には台湾・香港・マカオは含まれない。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



第 3 問

日本の産業と国土に関する以下の設問 A ～ B に答えなさい。解答は、解答用紙の (ハ) 欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問 A

表 3—1 は 2010 年と 2015 年について、それぞれの都道府県における 6 つの産業分類の就業者比率を都道府県別に示したものである。この表をみて、以下の問いに答えなさい。

- (1) 近年、知識経済化・情報社会化の進展が加速しているが、このことによって全国レベルでどのような地域的変化が生じていくと考えられるか。そのように判断した理由とあわせて 2 行以内で述べなさい。
- (2) 医療、福祉の就業者比率が高い都道府県にはどのような特徴があると考えられるか。2 つの点をあげ、あわせて 2 行以内で述べなさい。
- (3) 東日本大震災 (2011 年) 前後で被災地の産業構造はどのように変化したか。表から読み取れることを、変化の理由とあわせて 2 行以内で述べなさい。
- (4) 北海道と沖縄県にはどのような共通した経済的特徴があると考えられるか。2 行以内で述べなさい。

表 3—1

2010 年

	宿泊業，飲食サービス業	製造業	情報通信業	学術研究，専門・技術サービス業	医療，福祉	建設業
北海道	6.2	8.1	1.6	2.6	11.6	8.9
福島県	5.5	20.1	0.9	2.0	10.2	9.0
東京都	6.1	9.8	7.0	5.2	8.0	5.4
滋賀県	5.2	26.5	1.2	2.7	9.8	6.2
大阪府	5.9	15.9	2.7	3.2	10.6	6.8
高知県	6.0	8.6	1.1	2.2	14.9	8.3
沖縄県	8.1	4.8	2.0	2.8	12.1	9.2

単位：％

2015 年

	宿泊業，飲食サービス業	製造業	情報通信業	学術研究，専門・技術サービス業	医療，福祉	建設業
北海道	6.0	8.4	1.7	2.6	13.4	8.4
福島県	5.1	18.5	0.9	2.4	11.2	10.8
東京都	5.7	10.1	7.6	5.6	9.2	5.2
滋賀県	5.2	26.7	1.2	2.6	11.6	5.9
大阪府	5.6	15.7	2.8	3.2	12.1	6.5
高知県	5.7	8.4	1.1	2.4	16.8	8.1
沖縄県	7.8	4.9	2.2	2.9	13.9	8.9

単位：％

国勢調査による。

設問 B

次の文は、日本の 5 つの半島について、それぞれの特徴を説明したものである。以下の問いに答えなさい。

A 半島

この半島では、大手水産会社が手がける遠洋漁業の拠点が置かれ、ダイコンなどの畑作物の栽培が盛んであった。高度成長期に大都市の通勤圏が外側に拡大するなかで、住宅地開発が盛んに進められた。しかしながら、現在は、高齢化が進み、人口の減少が大きな問題となっている。

B 半島

この半島は、リアス式海岸で知られ、第 2 次世界大戦前から真珠の養殖が行われてきた。また、大都市圏に比較的近いために、私鉄会社が半島の先まで路線網を伸ばし、大都市圏から行楽客を多く集めてきた。外国の街並みなどを模したテーマパークが開発されたり、世界的に著名な高級ホテルが進出したりしている。

C 半島

この半島では、農業と漁業が中心的な産業であったが、1960 年代に大規模工業基地の建設が計画され、広大な用地の買収、土地の造成がなされた。しかしながら、1970 年代のオイルショックにより計画は頓挫した。その後、核燃料廃棄物関連の施設が立地しているものの、現在でも利用されないままの土地が少なくない。

D 半島

この半島には、国宝にも指定されている平安時代の大堂で知られる寺院をはじめ、歴史の古い寺院が多くある。最近では「昭和の町」として知られるまちづくりにより、観光客を集めている。かつては、海を挟んだ隣の県の農民が、ミカンの出作りをしたことでも知られるが、現在では休耕地も多くなっている。

E 半島

この半島では、平地は少ないが、棚田の風景は有名である。伝統産業として漆器産業が盛んであり、また 1970 年代には、農村労働力を求めて、繊維関係の工場が多く進出した。しかしながら、合繊不況により、繊維の工場は多くが閉鎖されている。従来から水産業、観光業が盛んであったが、最近ではその内容が大きく変わってきている。

- (1) A～C の半島は、図 3—1 の①～⑦のいずれかである。該当する半島を A—○のように答えなさい。
- (2) A 半島の下線部で示したように、大都市圏に比較的近い半島で、高齢化や人口減少が進んでいる理由を 1 行以内で説明しなさい。
- (3) 一般的に、半島は、条件不利地として捉えられることが多く、典型的な過疎地域として指摘されることが多い。しかしながら、D 半島や E 半島では、空港の整備によって、地域経済が大きく変わってきている。D 半島、E 半島でのそれぞれの地域経済の変化について、以下の用語を用いて、あわせて 3 行以内で説明しなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

外国人 グローバル化 ハイテク産業

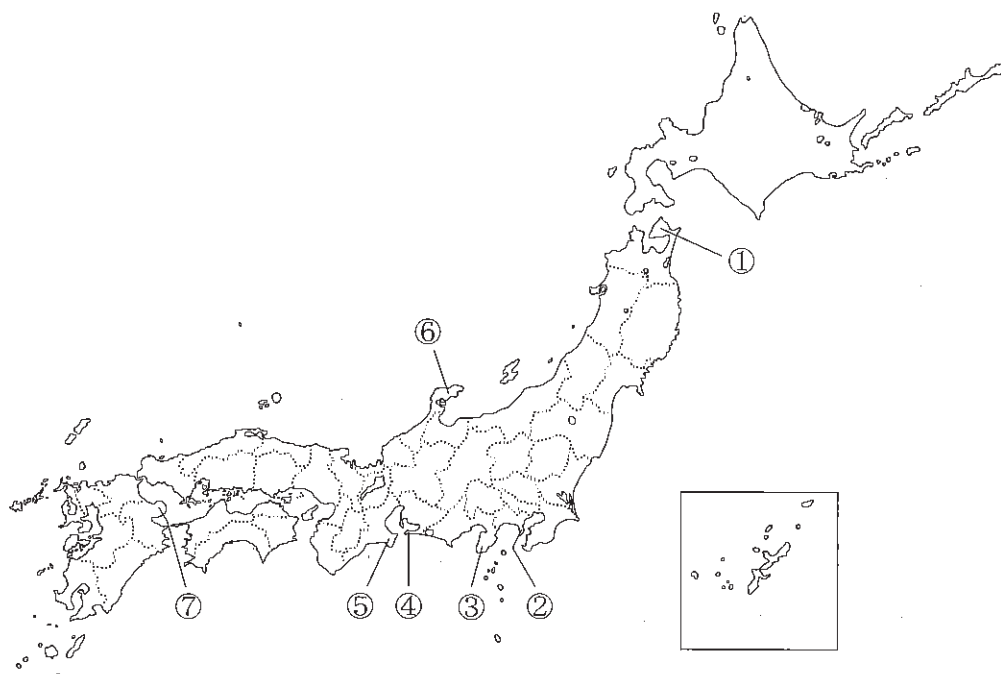


図 3—1

草稿用紙（切り離さないで用いよ。）

